

平成23年度

# 蘭越町水防工法実技訓練

6月23日(木)に尻別川の開発局ヘリポート周辺において、「蘭越町水防工法実技訓練」が実施されました。

この訓練は、尻別川の水災害を想定し、水防関係機関、団体が一体となり、災害時における水防活動が円滑に行われるとともに、水防体制の強化を目的としています。



来賓代表として挨拶する山口部長

実技訓練は、実際の水害で行われる代表的な5種類(月の輪工法・木流し工法・シート張り工法・積み土のう工法・土のう作成)の水防工法です。

水防工法は、水害の状況に応じて、最適な工法を実施しなければなりません。

これらの工法により、堤防の決壊を未然に防ぎ、水害を最小限に食い止めることができます。

また、水防工法訓練終了後には、開発局が所有する災害対策用排水ポンプ車、照明車の実技訓練が行われました。

## 月の輪工法



土のうを、漏水口を中心に半円径の輪を描くように積んで、水の圧力を弱め、堤防の決壊を防ぎます。

## 木流し工法



土のうを取り付けた流し木を堤防に打ち込み、川の急流部の流水を緩和し、堤防の川側が崩れるのを防ぎます。

## シート張り工法



パイプと土のうを取り付けたシートを堤防に打ち込み、川側の崩壊や浸水を防ぎます。

## 積み土のう工法



水防工法の中で最も基本となる重要な工法。洪水によって堤防が沈下した場合や、水が堤防を越すようになったときに用います。

## 土のう作り



水防工法の基本となる土のうを多量に作る作業。ビニール・合成繊維製の土のう袋にスコップで土を入れて、25～30kgの重さのものを作ります。



照明車と排水ポンプ車